

DX 戦略

戦略の方向性

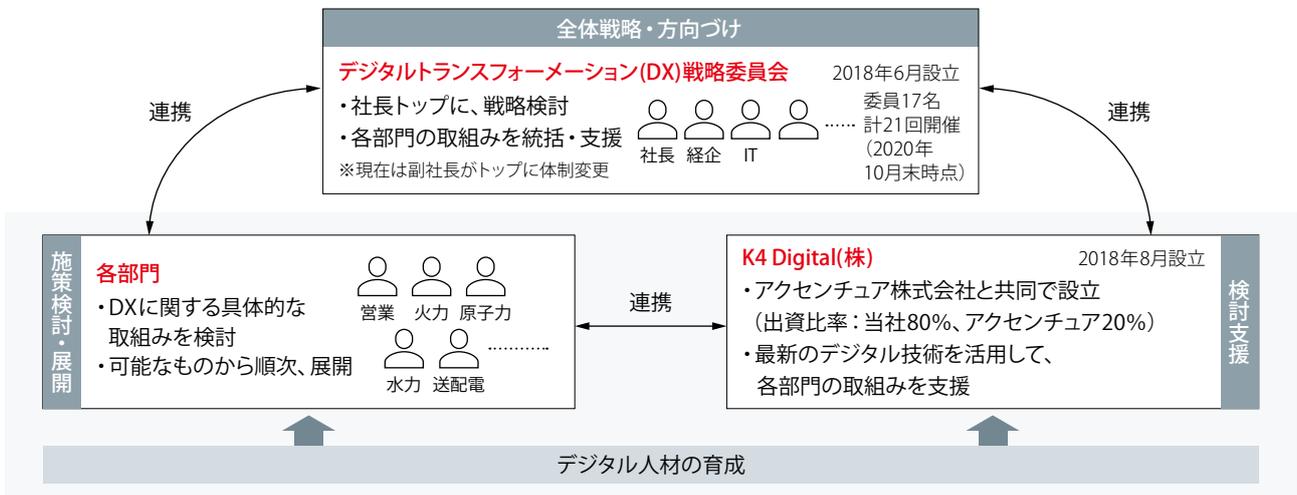
2018年6月、社長をトップとするデジタルトランスフォーメーション(DX)戦略委員会を立ち上げ、全体戦略を策定し、同戦略のもと、各部門がDXに関する具体的な取組みを検討し、順次展開しています。また、社内外の専門知見を活用し、各部門の取組みを支援するため、2018年8月「K4Digital(株)」を設立しました。

DXの推進には、データ分析やシステム構築など、デジタル技術に関する専門的な知識やノウハウを有する「デジタル人材」が必要不可欠であり、当社では、社内研修やK4Digital(株)への出向等を通じて、基礎的なデータマネジメントから高度なデー

タ分析まで幅広いデジタル技術を習得した人材の育成に取り組んでいます。

現状の取組み状況については、発電や送配電、営業などの事業部門だけでなく、管理間接部門も含めたすべての部門でプロジェクトが進行しており、2020年5月末時点で、プロジェクト総数は約450件にのぼります。

今後も、引き続き、デジタル人材を育成しながら、2019年度から2021年度までに、約700億円のDXに関する投資を実施するなど、全社一丸となってDXに関する取組みを推進していきます。



「攻めのIT経営銘柄」に電力・ガス業種において初めて2年連続で選定

DX戦略委員会の設置や、アクセンチュア株式会社と共同でのK4Digital(株)の設立などの取組みが評価され、経済産業省と東京証券取引所が選定する「攻めのIT経営銘柄」に電力・ガス業種において初めて2年連続で選定されました。



バーチャルパワープラントの運営をサポートする統合プラットフォームシステム「K-VIPs」の運用開始

当社へ調整力を供給する契約を結んでいただいたお客さまに対し、デマンドレスポンスの実施状況や収支管理をおこなうことができる統合プラットフォームシステム「K-VIPs (Kanden Vpp Integrated Platform system)」を運用開始しました。

当社へ調整力を供給する契約を結んでいただいたお客さまに提供する付加価値拡大と、容量市場や需給調整市場、成長が見込まれるエネルギー・リソース・アグリゲーション・ビジネスへの活用も図っていきます。



水力発電所におけるAIを活用した流氷雪自動検知プログラムの開発

厳冬期の水力発電所では、流氷雪がダムに流入して、取水量が減少し、発電できなくなる場合があるため、24時間体制でカメラの映像を監視員が確認し対応しています。これらの業務を削減するため、取水口カメラ映像よりAIを活用して流氷雪を検知するプログラムを開発しました。